

# サラニプ 〈編み袋〉

C0217

北海道／日本

アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物

## 参照資料

『パイェアンロ』p.10、

p.11



山で木の実を拾った時、海で貝を拾った時などに、この袋に入れます。囲炉裏にぶらさげてつかうこともあります。これはポンサラニプ（ポン=小さな、サラニプ=編み袋）で、シュロひも（ヤシ科シュロの木の幹を包む毛をより合わせて作ったひも）をつかって編まれています。

「材料ははじめ、樹皮や草皮から採取した繊維をよってひもにしたものを使って編まれました。衣服や敷物を作り出したあとの弱かったり短かったりした材料で編み袋が作り出されていました。」

以上、製作された津田命子先生からのメッセージです。